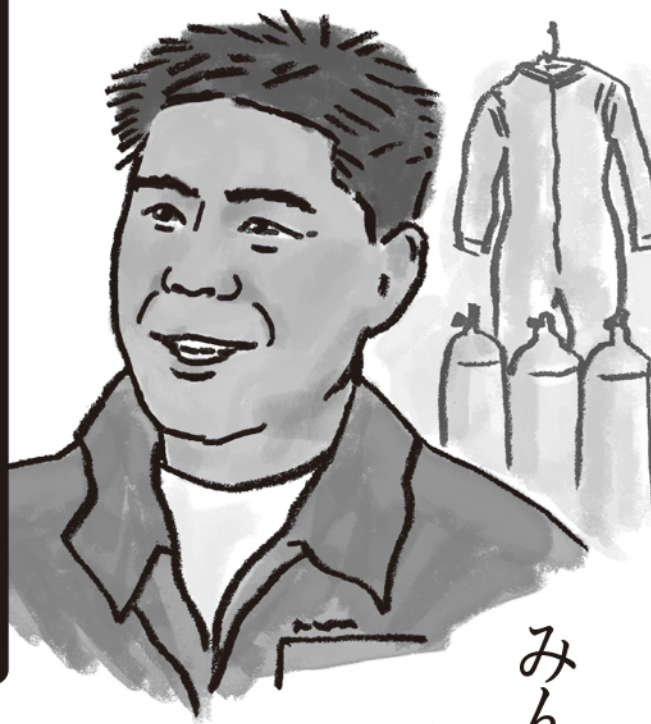


父が遺してくれたもの。 大切なものを守り、継いでいく。

警城教会 佐藤浩一さん

佐藤浩一さんの実家は、福島県小名浜港で海事工事や海難救助にあたる潜水会社「ナポレオン」を経営していた。親分肌
の父を慕い仕事仲間が毎日のように自宅
に集まることから、家族は家の隅に追いや
られた。さらに、父は酒量が増すと母に暴
力を振るった。その一方で、目に焼き付い
ている海難救助の現場で采配を振るう
凛々しい姿。父に対する嫌悪、不信、そし
て尊敬…浩一さんは相反する思いの中で
激しく葛藤していた。平成14年、突然の脳
溢血で他界した父の葬儀の際、人のため
に尽くし、地域の人たちから信頼されてい
たことを知る。そして、父の会社と志を受け
継ぐ。潜水士、経営者としては素人同然の
中で、社員の奮闘や知人の助言でなんと
か荒波を乗り越えてきた。経営が軌道に
乗り始めた矢先、東日本大震災が襲い、
福島第一原発の水素爆発が起る。浩一
さんのもとに東京電力の協力会社から福
島第二原発での潜水調査の依頼の連絡
が入る。2週間に及んだ仕事を終え、家族
の笑顔を目にしたとき、父が遺してくれ
たものの存在に気づく。浩一さんはそれを受け
とめ、チカラに変え、生きている。



みんなすばらしい

この世界、この宇宙全体は、三法印——諸行無常・諸法無我・涅槃寂静——という真理のはたらきのただなかにあります。もちろん私たちの人間も同じ真理に生かされており、動物も植物も鉱物もみんな一緒です。それは、すべてが大いなる一つのいのちを生きているとも、根源のいのちを生きているとも表現できます。つまり、みな等しく仏性そのものといえるのですが、すべてが真理のまにまにあることを理解できるのは、ただ人間のみです。そうした意味で、人界に生まれてきたことはほんとうにありがたく、すばらしいとしかいいようがありません。あとは「ひとりひとりが持つている」というその力、輝きに、私たちが気づくこと。自覚することが大切です。

立正佼成会